

衛研ニュース

No. 188



＝山形県衛生研究所倫理審査委員会が開催されました＝

平成30年5月16日（水）に、平成30年度第1回山形県衛生研究所倫理審査委員会を開催しました。医療分野、社会学分野の有識者及び研究者の観点も含めた一般の立場の代表者を委員としてお招きし、6題の研究課題が審査されました。

も く じ

- ※ ヒトに何かを伝えるということ ～英語口演を経験して～
- ※ 衛生研究所のお仕事 ～食品のアレルギー物質検査～
- ※ 山形県衛生研究所における環境放射能調査について

- 瀬戸 順次 (2)
- 山田 浩貴 (3)
- 大河原 龍馬 (4)

基本方針

県民の生活と健康を支えるため、
緊密な連携をもとに次のことを心がけます。

- 1 信頼される検査結果及び研究成果の提供
- 2 高い倫理観を持ち、知識、科学技術の修得育成
- 3 地域社会へ、わかりやすい保健情報の迅速な提供
- 4 公衆衛生向上のための医療、福祉との密なる連携
- 5 新たな創造へ、和をもって意欲的にたゆまぬ努力

編集発行

山形県衛生研究所

平成30年6月10日発行
〒990-0031 山形市十日町一丁目6番6号
Tel. (023) 627-1108 生活企画部
Fax. (023) 641-7486
URL ; <http://www.eiken.yamagata.yamagata.jp>

ヒトに何かを伝えるということ ～英語口演を経験して～

去る2018年3月15～16日、新潟医療人育成センターで開催されたThe 52nd U.S.-Japan Cooperative Medical Sciences Program, Mycobacteria Panel Meeting (日米医学協力計画抗酸菌症専門部会 第52回日米合同部会)において、日米医学抗酸菌部会長より招聘を受ける形で、結核に関する口演をおこなってきました。参加者は約80人で、日本人研究者約7割、アメリカ人研究者約3割でした。抗酸菌(結核菌とその仲間の菌たち)に関する最先端の研究を進めている日米の研究者からの24題の口演、ポスター発表23題、および特別講演3題という盛りだくさんの内容で、活発な議論がおこなわれました。そして、個人的には、2日間の全てのやり取りが英語という恐ろしい体験をしてきました。

今回、初めての英語口演ということで、前年11月に口演の話をいただいてから約4か月間、入念な準備を進めました。15分間の発表の中で、自分が相手に何を伝えたいのかをじっくり考え、発表スライドを一枚一枚丁寧に作成していきました。併せて、聴衆の一部がアメリカの方々ということでしたので、外国人研究者の特徴(どうやら物事をはっきりという方が多いようだなど)に関する情報も収集し、厳しい指摘にも対応できるよう、20以上の想定質問に対する回答も準備しました。発表内容は、何度かネイティブスピーカーにチェックしていただきながら修正を重ね、50回以上は練習をしたでしょう。

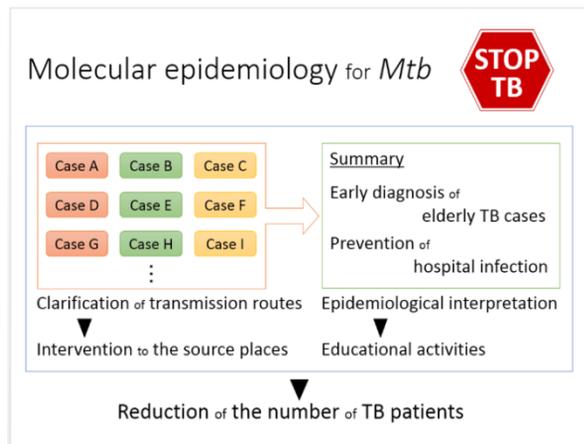
いよいよ、学会2日目の口演当日。会場に到着した朝から心臓バクバクで、周りから見て明らか

に様子がおかしかったと思います。ちなみに、発表は最後から2番目で、顔面蒼白の時間帯が続きました。そして、いざ発表、となって以降の15分間と、その後の5分間の質疑応答の記憶はほぼなく、自分がまともに話をできているのか大きな不安を覚えました。その中でも、今までにない変な汗をかいたことだけは鮮明に記憶しています。しかし、講演後、複数の先生から「良い発表でした」とお褒めの言葉をいただいたことからすると、どうやらこちらが言いたかった事は伝わったようでした。ただ、質疑応答は、まさにしどろもどろで、惨憺(さんたん)たる状況でしたが。

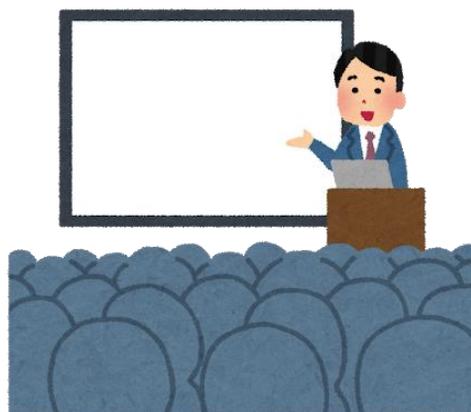
今回、初めての英語口演を経験して、気付いたことが3つありました: ① アメリカ人研究者は、みなさんフレンドリーでジェントルだったこと、② しっかりと準備をすれば、言葉の壁があったとしても相手に自分の考えが伝わること、③ でも、やっぱり英語は難しいこと。

この原稿の執筆と並行して、ちょうど県外講演の準備を進めています。こちらは得意の(!)日本語ですので、変な汗をかくことはなさそうです。ただ、英語であっても日本語であっても、聴衆のニーズを捉え、相手の気持ちを考えながら自分の伝えたいことをお話しすることに変わりはないと思います。聴衆のみなさんの貴重な時間を無駄にしないようしっかりと準備をして、自他ともに満足のいく時間を過ごしていきたいと考えています。

(微生物部 瀬戸 順次)



口演スライド (抜粋)



衛生研究所のお仕事 ～食品のアレルギー物質検査～

衛生研究所では、食品のアレルギー物質検査を実施しています。食物アレルギーは多様な原因食物によって引き起こされ、年々増加傾向にあります。特に小さな子どもに多くみられ、様々な要因によって発生するため原因の特定が難しいと言われています。

アレルギーを起こしやすい原因食物の内訳を見ると鶏卵、牛乳、小麦の3つが上位を占めています（図1）。

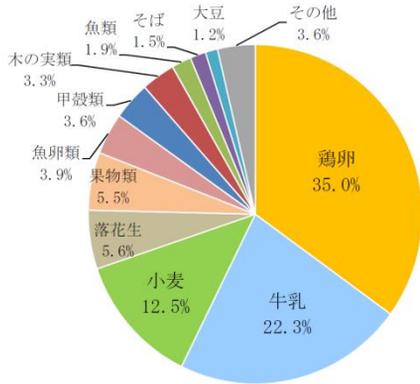


図1 原因食物

出典:「食物アレルギーに関連する食品表示に関する調査研究事業 報告書(平成27年度)」

アレルギー物質を含む食品の表示基準は食品表示法によって定められています。これにより、アレルギー症状を引き起こす原因食物のうち、発症数が多いものや重い症状を引き起こしやすい特定原材料7品目（えび、かに、小麦、そば、卵、乳、落花生）を含む食品には表示が義務付けられています。食物アレルギーを持つ人は、この食品表示を参考にして食品を選ぶため、表示に誤りがあった場合、大きな健康被害に繋がりにかえりません。

そこで、山形県では県内で製造された加工食品を対象にこの表示に誤りがないか、特定原材料が誤って混入していないかについての検査を実施しています。

アレルギー物質検査では、はじめにアレルギーの原因となるタンパク質がどの程度含まれているかを調べるスクリーニング検査（ELISA法）を行い、その後必要に応じて、アレルギー物質を特定する確認検査（PCR法またはウェスタンブロット法）を行い判断します（図2）。

衛生研究所では、衛生検査を通して県民のみなさまが安心して過ごせるように努めています。
(生活企画部 山田 浩貴)

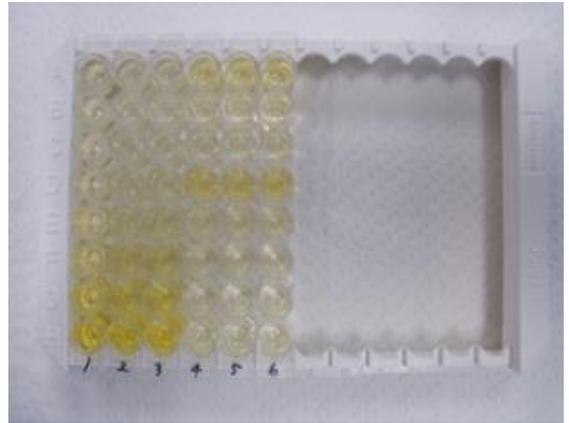


写真:ELISA法

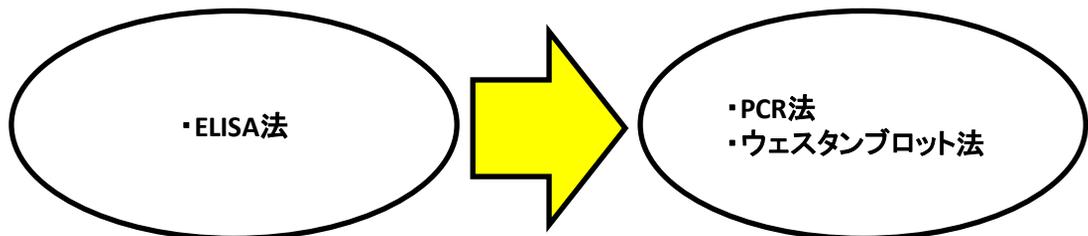


図2 アレルギー物質検査の流れ

山形県衛生研究所における環境放射能調査について

私たちの身の回りには様々な放射性物質が存在しています。放射性物質には、地球上に元々存在する天然放射性核種と、人間が核エネルギーを利用することで発生する人工放射性核種があります。地域によって環境中の放射能レベルは異なるため、平常時からそのレベルを把握しておくことは、国内外の原子力災害や核実験等による影響を調べるうえで重要です。そのため、当衛生研究所では原子力規制庁から委託を受けて、昭和48年より山形県内の環境放射能水準調査を実施しています。

平成30年2月に調査で使用する大型水盤を更新しました（写真）。この装置で1ヵ月間の降下物（空から地表に降下する雨水、雪やちり埃）を採取します。この試料を分析することで、採取期間中に降下した放射性物質の種類と量が分かります。これまでは冬季に水盤内の試料が凍ってしまうことがありましたが、今回更新した装置にはヒータが内蔵されているため、凍結を防止し、迅速に前処理を行うことができるようになりました。

この他、当所では空間放射線量率や大気浮遊じん（大気中に浮遊している粒子状の物質）等を調



写真：更新後の大型水盤

査しており、これまでの結果は原子力規制委員会ホームページ「放射線モニタリング情報」で公表されています（<http://radioactivity.nsr.go.jp/ja/>）

今後も調査を継続し、平常時の状況を正確に把握することで、県民の皆さまが安心して暮らせる環境づくりに努めていきます。

（理化学部 大河原 龍馬）

衛生研究所の論文・学会等発表

発表論文

- 1) 瀬戸順次、阿彦忠之：山形県における高齢者の内因性再燃結核症例の季節性、結核93:93-100, 2018

学会等発表

- 1) Junji Seto, Takayuki Wada, Yu Suzuki, Tatsuya Ikeda, Katsumi Mizuta, Tadayuki Ahiko: A case of cross-contamination in a laboratory at remote location clarified by molecular epidemiology for Mycobacterium tuberculosis, The 52nd US-Japan Mycobacteria Panel Meeting, 2018. 3. 15-16, Niigata-city.
- 2) Ooka T, Rakibul Imd, Ochiai S, Ogura Y, Seto K, Isobe J, Ikeda T, Seto J, Gotoh Y, Nishi J, Hayashi T: Genomic comparison of Stx2f phages from Escherichia coli and Escherichia albertii. 2018. 5. 6-9, VTEC2018, Florence, Italy.
- 3) 大貫典子、高橋博人、阿彦忠之、水田克巳、山田敬子、石川仁：山形県における麻しんのアウトブレイクについて、病原微生物検出情報39:54-55, 2018.
- 4) 駒林賢一、瀬戸順次、田中静佳、鈴木裕、池田辰也、水田克巳、大貫典子、山田敬子、阿彦忠之、石川仁：山形県における麻しんの発生-修飾麻しん患者と典型麻しん患者の伝播の違い、病原微生物検出情報39:59-60, 2018.